

学部等名	メディア学部メディア学科
------	--------------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
メディア学部は、大学の理念に基づき、生活の質の向上、技術の発展と持続可能な社会に貢献する人材の育成を目的としています。具体的にはメディア表現、メディア環境、メディア技術などの教育と研究を通じて、論理的な思考力やコミュニケーション力を培い、技術やスキルの習得だけでなく、本質の理解や人間への洞察も高めます。これにより多様で発展的なメディア分野で活躍できる創造性豊かな人材を育てています。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
メディア学部では、人間社会のあらゆる局面において機能するメディアに関してコンピューターとインターネットの理解と活用を基礎として学びます。これらに立脚し、新しいゲームの制作や応用、VRをはじめとするXRの応用、あらゆる分野へのAIの活用、マーケティングの理解など生活の質の向上や産業界の課題解決に貢献できる人材の育成を目指しています。幅広い分野に対応できる柔軟な思考力と創造力を備えた人材を育て、社会の発展に寄与します。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
メディア学部では、教育目標や育成する人材像を明確にし、シラバス、ガイダンス等を通じて学生に、アゴラ等の会議を通じて教職員に周知しています。特に1年次科目のフレッシュャーズゼミではメディア学部の扱う分野について導入的なトピックをそろえ、メディア学部が目指すものの理解とともに学習の動機付けを行っています。また、産業界との連携も含めた教育方針は、授業や実習を通じて日常的に共有されています。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

メディア学部では、教育の質を継続的に改善するため、学部内の教務委員会が中心となり、教育目標やカリキュラムと授業内容の整合性などを定期的に自己点検・評価しています。評価結果は学部内で共有され、定期的なカリキュラム改定に反映する形で、教育改善に活用されています。また、コンテンツ、技術、社会の各コースにおいてコースアゴラにより分野内の問題共有と解決を行っています。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

メディア学部では、定期的に各教員の授業を複数の教員が点検する「授業点検」を行い、その点検結果は授業直後の検討会で当該教員に即時にフィードバックされ、授業の改善に生かされます。また、同時に点検者の教員は点検作業を通じて他の教員や分野の授業の進め方を学び、自身の授業の改善に役立てています。また、プロジェクト演習に関しては毎学期、テーマごとの報告書を作成し、全教員で共有しています。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

メディア学部では、「GPS Academic」の結果を用いて学生の学修成果や成長をアドバイザー教員が確認します。また、履修状況や出席状況、単位習得状況は学修ポータル「Ethica」により学生とアドバイザー教員が共有し、学期ごとのアドバイザー面談などにより学修支援の充実を図るとともに、教員間で教育方法等の問題点を共有し対応する体制を整えています。就職期の学生に対しては「TUT-就活ナビ」を活用し、指導教員が学生の就職活動を把握するとともにサポートしています。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

メディア学部では、授業アンケートを通じて学生の意見や要望を収集しています。また、アドバイザー制 WG が各学期に学生アンケートを行っています。これらの声は WG によるデータ分析をへてアゴラ等の教員会議で共有され、教育内容や研究活動の改善や学生の支援に反映されています。また、成績不振の学生に対しては春と秋の保護者会で保護者を交えた対策の検討を行っているほか、必要性和緊急性に応じて随時保護者への連絡と連携を行っています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

メディア学部では、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーを策定し、学科 Web サイトやシラバス、学生ポータル等を通じて受験生・高校教員等・企業・学生・教職員および保護者に周知しています。これらのポリシーは、教育課程の設計や学修成果の評価、入学者選抜の方針に反映され、教育の質保証と継続的改善に活用されています。
--

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

メディア学部では、カリキュラムポリシーに基づき体系的な教育課程を編成しています。基礎教育科目は国際的な教養や豊かな人間性を身につけるための科目群で構成され、専門科目では講義・演習・実習を組み合わせた実践的な学修を通じて専門分野の学修を深め、新しい価値を創造できる能力を養います。卒業研究では集大成として論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力などを身につけます。2024 年度には新入生からクォーター制の新カリキュラムをスタートさせ短期留学や社会での活動など、学生が実践的な学修により取り組みやすい態勢を整えています。
--

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

メディア学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果の評価方法として明確な単位認定基準や進級基準を定めています。これらは学生便覧やシラバス、各学年のガイダンス等で周知され、成績評価や2年次進級要件、卒業研究着手要件、卒業要件に厳格に適用されています。卒業研究では、卒業論文および最終発表において複数の教員による審査を経てDPに沿った能力を身につけているかの判定が行われています。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。
--

メディア学部では、アクティブラーニングやPBL（課題解決型学習）、社会連携などを積極的に導入し、学生の主体的な学びを促進しています。これにより、論理的思考力や問題解決能力、チームでの協働力が向上し、実社会で即戦力となる人材育成に寄与しています。また、各学生が所持しているノート型パソコンを日常的な学修活動に最大限活用し、Moodle や Google Classroom、チャットツール等を利用した授業を行っています。AI の適切な活用についても大学のガイドラインに沿って各教員が工夫して授業をデザインしています。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

メディア学部では、3つのポリシーに基づき、入学者選抜の基準を明確化・共有し、入学後は講義・演習・実習を通じて学修成果を多面的に評価しています。各科目のシラバスに明記された評価方法に従い、定期試験やレポート、小テスト、発表等を組み合わせて厳格に判定しています。また、卒業研究では複数教員による審査を行い、総合的な能力を評価しています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
イ. 前年どおりである又は特に問題はない
ウ. 改善・修正が必要な点がある。

ア

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

2024年度新入生よりクォーター制のカリキュラムに改定しました。学年進行で順次切り替えを進めていきます。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

メディア学部では、教員の採用・昇格に関して、研究業績、教育能力、大学運営への貢献実績などを基準とした明確な規程に準拠しています。これらの基準は大学規程集等に明記され、学内で共有・運用されています。採用は公募により適正に行われています。採用時には学部幹部による面接や授業能力の確認を実施し最終的には大学の人事委員会及び評議会が承認します。昇格審査は人事委員会等の審議を経て、公正かつ厳正に実施されています。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

メディア学部では、大学全体のFD方針に基づき、授業改善や教育の質向上を目的としたFD活動を継続的に実施しています。各教員は学長室を中心に周知される各種FD活動に自主的に参加し、最新の情報に基づく授業評価や教育課題の共有、改善策の検討を行っています。活動内容は学部内で共有され、教育改善に活用されています。また、全学教職員会にて研究倫理や、ハラスメント、AI利用、情報セキュリティ、合理的配慮などについて学び、研修を受けています。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

メディア学部では、教員の教育・研究活動に対し、授業評価アンケートや研究業績の自己点検・評価、毎月のアゴラでのコースごとの業績報告などを通じて成果を把握しています。これらの結果は人事評価に反映され、教育の質向上や研究力強化に活用されています。また、教員の評価につ

いては学内委員会による審査も行われ、透明性と公正性が確保されています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
イ. 前年どおりである又は特に問題はない
ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

メディア学部では、1年次から参加できる「プロジェクト演習」に力を入れています。メディア学の各分野の多様なテーマをそろえ、専任教員だけでなく外部の専門家も講師に招き、最先端に触れながら実社会との関係を踏まえた実践的な学修に低学年から取り組めるようにしています。一方、特に成績が優秀な学生を対象に専門的な研究の入口科目として「先端メディア学」および「先端メディアゼミナール」を配置し、早くから研究を志向できるようにしています。また、海外大学・学部との提携を進め学生を国際的な活動に参加させる取り組みを進めています。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

メディア学部では、2024年度より前期・後期の2学期制から1年を4学期に分割して授業を行うクォーター制に段階的に移行しています。一部の例外を除く多くの科目が7週間単位で実施されています。これにより、科目選択や履修時期の自由度を高め、クォーター単位で留学したり、社会連携プロジェクトやコーオプ実習、インターンに参加したりするなど、従来、授業との両立が難しかった活動に参加しやすくしています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
イ. 前年どおりである又は特に問題はない
ウ. 改善・修正が必要な点がある。

ア

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

2024年度よりクォーター制を導入し学生の活動の自由度を高めています。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。